

あかるく やさしく たくましく

No.20

令和8年1月24日

☆6年生こころの劇場

1月23日(木)、6年生は倉敷市民会館へ行き「こころの劇場」を観てきました。この「こころの劇場」とは、一般財団法人舞台芸術センターと劇団四季が、日本全国の子どもたちに舞台を通じて、生命の大切さ、人を思いやる心、信じあう喜び等、人が生きていく上で大切なことを語りかけるプロジェクトで、多くの企業等の支援を受けて実施しているそうです。(パンフレットにそう書いてありました)倉敷市では、市内の6年生全員だけが無料で観ることができます。ありがたいですね。とても寒い日でしたが、水島臨海鉄道に乗り、倉敷市駅から歩いて会場まで行きました。今年の演目は「カモメに飛ぶことを教えた猫」でした。とても素敵なミュージカルでした。このミュージカルを見ていろんな思いをもったのではないかなと思います。何人かの子どもたちの感想を載せたいと思います。



ちなみに今回の帰りに、倉敷観光休憩所(倉敷市立美術館の横)でお弁当を食べました。せっかく来たのですから、今開催中の「倉敷っ子なかよし作品展」も見学してきました。これまた素晴らしい作品を観ることができてよかったと思います。素晴らしい一日になりました。

<こころの劇場の感想より>

「堂々とした演技に心惹かれたこころの劇場」 6年 ○○ ○○

私は、堂々とした演技や猫が自分を捨ててもカモメを助けようとしたところに心が惹かれた。動物たちの会話が始まってすぐ、ハキハキとした声や大きな動きに自信を感じた。「私も自信をもって堂々と演技がしたい」というふうに思い、とても印象が強かった。あと飛び方を教えてもらうには、しっぽを切らなければならないとなった時、「いいんだ!この子が飛べるのなら!」と自分を捨ててもカモメを助けようとしていたところも印象が強かった。

「勇敢さが伝わったこころの劇場」 6年 ○○ ○○

私は最初の明るい音楽でドキドキワクワクした。そして始まるとカモメのお母さんの悲慘なシーンがあってとても悲しかった。けどゾルバたちが命をつないで、たまごから一生懸命に大切に育てていてすごいと思った。他にもカモメのお母さんから3つの約束を守るために、ネズミやチンパンジーからフォルトゥナータを守っていてすごかった。特に最後のフォルトゥナータのために、自分の尻尾を犠牲にしてまで空の飛び方を教えてもらおうとしていて、とても勇敢だなと思った。私はこの物語を見て、一人のために犠牲になろうとしているところがとても勇敢で、自分もそのようになりたいと思った。劇のところでは、大きな動作や声を出していて、学習発表会に自分もできるように活かしていきたい。

「小学校最後の校外学習」 6年 ○○ ○○

私がこころの劇場ですごいなと思った場面は、猫がカモメのお母さんと約束したことを守ろうと、必死に努力をしていたところです。なぜかという、自分の赤ちゃんではないから、別に育てなくても約束を果たさなくてもいいのに守ろうとし、博士やマチアスに聞いて、ヒナになるまで育てているところです。猫は飛べないから、カモメに飛ぶことを教えてあげるのは難しいけど、いろいろな方法を試して最後にはカモメが飛ぶことができるとすごいなと思いました。みんなで協力してヒナを飛ばすことができたのがすごかったです。



寒い中でも元気に歩きました